

Title	「ノヴォカイン」
Author(s)	血脇, 守之助
Journal	齒科學報, 12(8): 12-19
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/1538">http://hdl.handle.net/10130/1538</a>
Right	

軸面窩洞中唇、頰、及舌面單純窩洞ニ於ケル名稱ヲ舉グレバ次ノ如シ隣接面窩洞モ又同法ヲ以テ命名スルヲ得可シ

窩壁 近心壁 遠心壁 齒頸又ハ齦壁  
咬合面又ハ切端壁 軸壁

縱徑ニ 近心 軸壁緣隅 遠心軸壁緣隅

緣隅 近心 咬合面緣隅 遠心咬合面壁緣隅

橫徑ニ 近心 齦壁緣隅 遠心 齦壁緣隅

咬合面 軸壁緣隅 齦 軸壁緣隅

尖角 近心 軸 齦壁尖角 遠心 軸 齦壁尖角

近心 咬合面 軸壁尖角 遠心 咬合面 軸壁尖角

窩緣 近心側窩緣 遠心側窩緣 齒頸窩緣 咬合面又ハ切端窩緣

篇中ノ語未ダ自ラ確定セザルモノアリ江湖ノ研鑽ヲ待タント欲ス (完)

◎「ノゾカイン」局所麻醉藥トシテノ其効用

血 脇 守 之 助

齒牙ノ拔去ニ際シ可及的無痛ナラシメントハ術者ノ何レモ希望スルトコロナルガ之ガ方法トシテ採用セラレツ、アル全身麻醉法ハ其使用ニ自カラ範圍アリ故ニ一般ノ場合ニ於テハ局所麻醉ヲ施スヲ常トス而シテ其麻醉劑トシテ使用セラル、モノハ主トシテ古加乙涅又ハ化學的之ニ關係アル「ニコイカイン」及「ストヴァイン」等ナリトス然レモ當時最モ貴用セラル、古加乙涅ノ如キモ往々中毒ヲ起スコアリ且ツ其溶液ハ永ク持續セザルノ缺點アリ未ダ以テ理想的藥品ト稱スルヲ得ズ

獨逸ライプチヒノブラオン博士ハ理想的の局所麻醉劑ノ性質ヲ擧ゲテ曰ク

一 麻醉ノ効力ハ勿論其他古加乙涅ニ比シテ毒性尠ナキモノナラザル可ラズ  
 二 刺戟性ハ極メテ弱キモノナラザル可ラズ、強酸性又ハ亞爾加里性ノモノハ必ず組織ヲ破壞スルヲ以テ不可ナリ

三 水ニ溶解シ其溶液ハ可及的變敗セザルヲ可トス、即チ貯藏ニ耐ヘザル可ラズ

四 粘膜面ヨリ速ニ吸收セラル、ヲ要ス

五 「アドリナリン」ヲ混用シ得ベキモノナラザル可ラズ、即チ「アドリナリン」ノ脈管收縮作用ヲ害スルモノハ不可ナリ（今日迄市場ニ現ハレタル「コカイン」ノ代用品ハ「アドリナリン」ノ作用ヲ消失セシムルカ或ハ之ヲ障害ス）

以上ノ性質ヲ具備シタル藥品ハ研究ノ結果昨年アインホルン氏ニヨリ發見セラレ終ニ「ノヴォカイ

ン」トシテ世ニ紹介セラル、ニ至レリ

本品ハ形状針狀晶ヲ結び百五十六度ノ温ニテ熔融シ水ニハ一ト一ノ比例ニテ溶ケ反應中性ニアル  
 コール」ニハ殆ド其三十分ニ溶解ス

發見後未ダ一年有餘ニ過ギザルヲ以テ實驗報告ニ接スルコト甚ダ尠シト雖モ此頃英國シエー、ダブ  
 リユウ、ペーヤ氏ノ發表シタル報告ハ稍々本品ノ効用如何ヲ知ルニ足ルベシト信シ左ニ抄譯シテ同好  
 ノ士ニ頒ツ

「ノヴォカイン」ノ英國ニ輸入セラレタルハ一千九百六年六月ニシテ余ノ之ヲ實驗シタルハ同年十  
 二月以降ナリ其報告左ノ如シ

第一例 患者ハ僧侶ニシテ亞酸化窒素ノ吸入ヲ嫌ヒ余ニ古加乙涅ノ使用ヲ需メタリ余ハ該患者ノ  
 古加乙涅使用ニ適當ナラザルヲ感シ新藥「ノヴォカイン」ノ一層安全ニシテ且ツ有効ナルベキヲ説明  
 シ該藥使用ノ同意ヲ得タリ患齒ハ左側上顎智齒ニシテ齒冠部ハ著ルシク破壊セルモ骨植極メテ硬固  
 ナリ而シテ其位置稍便ナラズ僅ニ齒鏡ノ反射ニヨリテ拔齒器ノ尖頭ヲ挿入スルヲ得タリ拔去後患者  
 ハ極メテ僅微ノ疼痛アリシト云ヘリ

第二例 次ノ患者ハ同藥ヲ以テ右側上顎智齒ヲ拔去セリ麻酔ハ頗ル完全ニシテ二日後該患者ハ自  
 ラ需メテ左側上顎智齒ノ拔去ヲ乞ヘリ何レノ場合ニモ些ノ疼痛ヲ感セザリシト云フ

第三例 患者ハ十七歳ノ少年ナリ本品ヲ注射シテ破壊セル右側下顎小白齒ヲ拔去セルニ患者ハ悲鳴ヲ放テリ術後之ヲ糺スニ些ノ疼痛ヲ感ゼザリシモ手術ハ頗ル手荒キモノナラント豫テヨリ想像シアリシ爲唯覺エス悲聲ヲ發シタルナリシト

第四例 左側下顎智齒將ニ萌出セントセルモ齒齦廣ク之ヲ蔽フテ頗ル焮衝シ居レリ依テ本品ヲ注射シ被覆セル齒齦全部ヲ切除セルニ少シモ疼痛ヲ感ゼザリキ此手術ハ局所又ハ全身麻痺ヲ施サバレバ頗ル疼痛アルモノナルコトハ讀者ノ既ニ了知セラル、トコロナリ

第五例 患者一婦人ナリ亞酸化窒素瓦斯ヲ使用シテ骨植硬固ナル一齒ヲ拔去セルモ尙他ニ同様ノ齒牙四個アリシヲ以テ次ニハ「ノゾオカイン」ヲ使用セリ患者ハ六ヶ月前手荒キ手術ヲ受ケタル爲意氣沮喪シ神經過敏トナリ居レリ乃チ余ハ本品三分ノ一「グレーン」ヲ注射シテ破壊セル右側下顎第二小白齒ヲ拔去シ更ニ同量ヲ注射シテ左側上顎第一小白齒ヲ拔去セリ三日後同量ヲ用ヘテ左側上顎第一及第二大白齒ヲ拔去セリ而シテ何レノ場合ニモ些ノ疼痛ヲ感ゼス患者ハ本品ノ効用ヲ自覺シテ最早亞酸化窒素瓦斯ノ必要ヲ感ゼズト唱ヒ居レリ

第六例 五十五歳ノ一紳士從來亞酸化窒素ヲ使用シ居レリト云フ余ハ「ノゾオカイン」ヲ注射シテ左側上顎第一大白齒ヲ拔去セルニ患者ハ絶對的疼痛ヲ感ゼザリシヲ以テ喜悅ノ餘リ翌日再來左側下顎第二小白齒根ヲ拔去センコトヲ乞フ依テ余ハ例ノ通り該齒根周圍ノ齒齦ニ注射セルニ齒齦ハ炎症ノ

爲弛緩セルヲ以テ藥液ハ容易ニ進入シ尙空虚ナル隣齒槽窩ニ逸脱セルヲ以テ効力充分ナラズ患者ヲシテ復ヒ亞酸化窒素ヲ想ハシムルニ至レリ

第七例 余ハ左側上顎第一小白齒ノ齒齦ニ注射シテ其齒髓ヲ抽出セントセリ余ハ之ニ依リテ過敏ナル牙質ヲ清掃シ齒髓ヲ露出セシムルヲ得タレドモ齒髓ハ失活スルニ至ラザリキ乃チ亞砒酸ニ少量ノ本品ヲ混ジ密封シ置キタルニ二日ノ後全ク失活シタリキ而シテ貼用後亞砒酸ノ特質ナル疼痛ハ少シモ起ラザリシト云フ

第八例 某醫師ノ左側上顎第一大白齒冠部著ルシク破壊シアリ患者ハ亞酸化窒素ノ吸入ヲ嫌忌シ余モ亦瓦斯ノ麻醉時間中ニハ到底拔去シ得ベカラザルヲ知覺セリ而シテ該患齒ハ余ノ從來手術セシ齒牙ノ内最モ困難ナルモノナリキ即チ冠部ハ齒齦下マデ破壊シ拔齒器ヲ以テ鉗取スル能ハズ依テ本品ヲ注射シタル後「バア」ヲ以テ三根ヲ分離シ「エレベーター」及鉗子ヲ交互使用シテ終ニ總テノ根ヲ拔去セリ手術ハ數分間ヲ要シ多大ノ困難ヲ感ゼシモ患者ハ些ノ疼痛ヲ訴ヘズ此實驗ニ依リテ考フルニ若シ「ノヴォカイン」ヲ適當ニ注射セバ完全ニシテ持續セル麻醉ヲ得ベキナリ

第九例 二年前余ハ一患者ニ瓦斯ヲ使用シテ齒牙ヲ拔去セシヲアリ麻醉時間少ナキ爲メ一時ニ二齒ヲ拔去セシノミナリト且ハ該患者ハ瓦斯ニ不適當ナリシ爲メ今回ハ「ノヴォカイン」ヲ使用シ一週三回ニテ十四根ヲ拔去セリ手術ノ際必要上齒槽ノ一部ヲ破壊セシヲアリシモ患者ハ全ク疼痛ヲ訴ヘ

ザリキ」著者ハ尙他ニ成效ノ實驗二十九例ト齒槽膿瘍ニ注射シテ失敗セル一例ヲ報告セルガ殆ンド前記ト同一ノモノナレバ茲ニハ省略スルヲトナシヌ著者ハ更ニ其實驗ニ徴シ附言シテ曰ク

「ノヴォカイン」ノ使用ニ就テハ何等ノ配慮ヲ要セズ即チ同種類ノ藥品ニ見ル如キ腦貧血、失神其他何等ノ後患ヲ遺サズ

本品注射前ニハ成ルベク患者ニ食事ヲ採ラシムルヲ可トス即チ食後ニハ比較的失神等ニ陥ルヲ稀レナレバナリ余ノ實驗ニ依レハ麻醉ノ効力ノ少ナキ場合ハ用量ノ不足ナルト齒齦腫脹セルト齒齦ノ例外ニ菲薄ナルトニアリ

余ノ採用セル注射方法ハ左ノ如シ

一 先ヅ微温ノ石炭酸洗口劑半「バイント」(凡ソ我一合五勺餘)ヲ患者ニ與ヘテ能ク口腔内ヲ含嗽セシム

二 金屬製ノ皮下注射器ヲ取り酒精ヲ以テ充分之ヲ消毒シ次ニ套管ト針頭トヲ分解シテ全部ヲ熱湯中ニ浸漬シ置ク

三 患者神經質ナレハ「ノヴォカイン」5%溶液ヲ注射針ヲ穿刺スベキ齒齦ノ部位ニ滴下シ五分間捨置クベシ之レ豫メ該部ヲ鈍麻シテ注射針穿刺ノ疼痛ヲ免レシメンガ爲ナリ

四 「ノヴォカイン」錠劑一個乃至二個(一個ハ三分ノ一グレーションヲ包有ス)ヲ三十三ミニム(滴)ノ熱

湯ニ溶解シテ一%又ハ二%ノ溶液トナス

五 注射器ノ套管ト針頭トニ熱湯ヲ通シ次デ以上ノ溶液ヲ套管内ニ入レ器械ヲ倒マニシ唧子ヲ押シテ空氣ヲ排除スベシ

六 實驗ノ例トシテ上顎齒ヲ拔ケスルモノト假定シ齒齦遊離縁ヨリ約八分ノ一「インチ」ノ齒齦部ニ針頭ヲ穿刺シ先ツ一二滴ヲ壓入シタル後數秒間停止シ更ニ其歩ヲ進ムベシ穿刺終リタラバ直ニ針頭ヲ除去セズ數秒時間待ツベシ蓋シ直ニ之ヲ除去セバ溶液逸流ノ恐レアレバナリ穿刺ノ位置佳良(齒根ノ上ヨリハ齒根ノ中間ヲ佳トス)ナレバ齒齦ハ漸次蒼白色ヲ呈シ恰モ乳酪狀ヲ爲スベシ然ル後徐ニ針頭ヲ拔キ更ニ他ノ部位ニ穿刺シ齒牙周圍ノ齒齦悉ク同一ノ状態ヲ呈スレバ全ク麻酔ニ陥リタルナリ余ハ手術ノ際決シテ穿刺ヲ急ガズ概ネ三分乃至五分ヲ費シ然ル後拔去ヲ行フ「ノヴォカイン」ハ一回ノ手術ニ於テ錠劑三個以上ヲ用エズ(一グレーンナリ)

使用後針頭ハ直ニ煮沸シ純酒精中ニ貯ヒ置クヲ常トス

以上ノ實驗ニ依リ余ハ「ノヴォカイン」ノ効用ヲ結論シテ左ノ如ク云ハントス

一 本品ハ完全ナル局所麻酔ノ効アリ

二 麻酔時期ハ古加乙涅ヨリ長シ

三 強溶液ニテモ組織ヲ刺戟セズ



四 麻醉力ハ古加乙涅ト同一ナリ

五 古加乙涅ニ比シ毒性少ナシ故ニ多量ヲ用ユルヲ得

六 其作用ハ不變ナリ

七 腦貧血、失神、後痛ヲ伴生セズ

八 食後又ハ斷食後ト雖モ使用スルヲ得

九 秘密劑ニアラズシテ最モ知ラレタル物質ナリ

十 普通ノ麻醉劑ヨリ廉價ナリ

余ハ小兒又ハ神經質患者ニ於テハ本品ヲ以テ瓦斯ニ勝レリト云ハズサレド瓦斯ノ使用ヲ恐ル、者又ハ瓦斯禁忌若クハ拔去ニ時間ヲ要スルモノニ於テハ最モ安全ナル局所麻醉劑トシテ本品ヲ推サバ  
ルヲ得ズ』

### ◎上顎竇蓄膿症ノ診斷並ニ療法

ドクトル 西山 信 光 譯

鼻ノ副腔系ハ相連續シテ全系ヲ形成スル者ナレトモ上顎竇並ニ前額竇ハ外見相分レタルガ如シ頭蓋ノ中線ノ側方ニ於テ施セル矢狀斷面ヲ檢スルニ篩骨細胞並ニ蝴蝶骨竇ハ相並列セル含氣腔ヲ呈シ内